



Setting samples ServiceNow連携モデル 導入手順書

目次

I. ServiceNow連携モデル概要

1. はじめに
2. ServiceNow関係図
3. ユーザー一覧
4. ロール一覧

II. ServiceNow連携モデル導入手順

1. 導入準備
2. ServiceNow連携モデル導入ファイルダウンロード
3. ServiceNow連携モデル導入ファイルインポート
4. プロキシ情報の登録
5. 証明書認証回避フラグの登録
6. 削除実行フラグの登録

III. ServiceNow連携手順

1. はじめに
2. ServiceNow連携情報の登録
3. オペレーション一覧の登録
4. 連携メニューの登録
5. Conductorの実行

IV. 連携対象メニュー追加手順

1. はじめに
2. 連携対象メニューの追加
3. 連携対象メニューをロールと紐付ける
4. 連携対象メニュー管理の登録
5. 項目名紐付づけ表の登録
6. クラスの登録
7. オペレーションの登録
8. メーカーの登録

V. 付録

1. 認証キー情報を変更したい場合

I .ServiceNow連携モデル概要



I .ServiceNow連携モデル概要 / 1. はじめに

CloudSystemテンプレート ServiceNow連携モデルとは

- CloudSystemテンプレート(以降はCSテンプレート)シリーズの一つ。
- CSテンプレートはExastro IT Automationのカートリッジの総称で、CSテンプレートをITAに導入することで、容易にITAから各システムの自動構築が可能となる。
- ServiceNow連携モデルでは、ServiceNowの構成管理(CMDB)上にITAの情報の同期を実施する。
※ServiceNow本体は事前に構成管理(CMDB)の利用準備を済ませておく。(本資料では構成管理(CMDB)の設定などについての説明は行いません。)

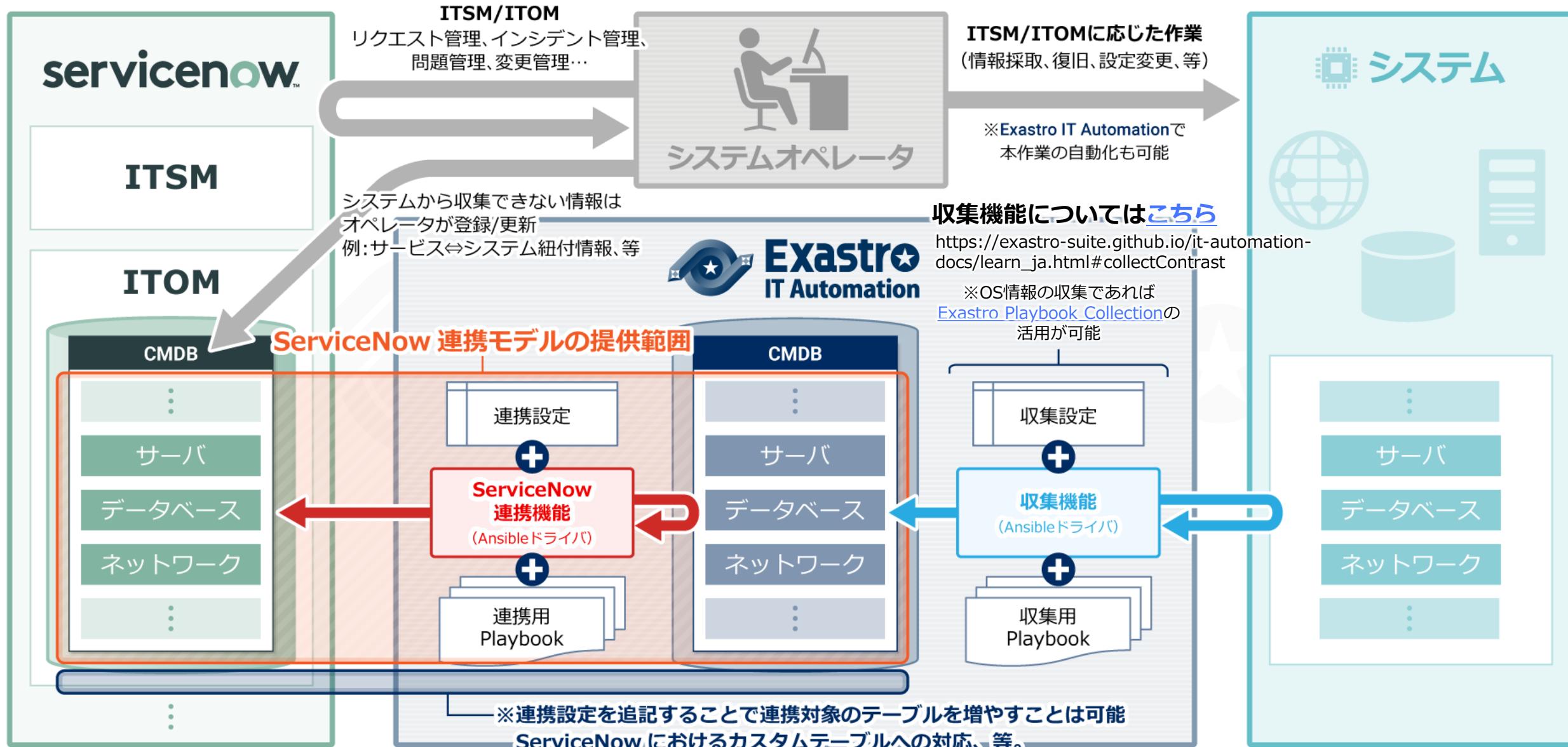
ServiceNow連携モデルの特徴

- Exastro ITAからAnsible Playbookを実行することで、ServiceNowの構成管理(CMDB)に対して、実行した段階の最新の構成情報をもとに同期処理を行う。

ServiceNow関連図

- 次スライドでServiceNow連携において、同期される構成管理(CMDB)の関連図を示す。

I .ServiceNow連携モデル概要 / 2. ServiceNow関係図



I .ServiceNow連携モデル概要 / 3.ユーザー一覧

ユーザー一覧

- ServiceNow連携モデルのインポート直後のユーザー(初期ユーザー)の一覧を以下に示す。
- 「ServiceNow連携モデル管理者」はServiceNow連携モデル内の管理者としての権限を持つ。
- ユーザー名、ログインIDは変更可能。
- 「administrator」のログインPWはITAへの初回ログイン時に変更したPW
- 「servicenow-user」の初回ログインPWは"password"

初期ユーザー一覧

ITA		想定業務
ユーザー名	ログインID	
システム管理者	administrator	・メニューの追加
ServiceNow連携モデル管理者	servicenow-user	・ServiceNow連携モデルの初期設定 ・ServiceNow連携モデル全般に関する設定を変更 ・ServiceNow連携の実施
ServiceNow連携モデルAPI ユーザー	servicenow-api	・Exastro IT Automation上の連携データ取得

I .ServiceNow連携モデル概要 / 4.ロール一覧

ロール一覧

- ServiceNow連携モデルに初期登録されているロールの一覧を示す。
- ロール名、紐付ユーザー名は変更可能。

ロール一覧

ロール名	紐付ユーザー名	権限概要
システム管理者	administrator	<ul style="list-style-type: none">・メニューの追加
ServiceNowモデル管理者ロール	servicenow-user Servicenow-api	<ul style="list-style-type: none">・ServiceNow連携モデルの全体に関する設定変更権限・ServiceNow連携に必要なメニューの操作権限・Conductor実行・プレイブック編集・パラメータ管理

Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順



II .ServiceNow連携モデル導入手順 / 1.導入準備(1/3)

●導入サーバの準備

ITAをインストールするサーバ(物理/仮想)を用意します。

サーバ動作要件は以下のドキュメントの [4頁 システム要件] を参照ください。

また本サーバはServiceNowと接続(http/https)できる環境を用意してください。

https://exastro-suite.github.io/it-automation-docs/documents_ja.html [ITA システム構成／環境構築ガイド 基本編]

●ITAをインストール

- ・ITAバージョンは1.7.2をインストールしてください。
- ・インストール手順は以下ドキュメントを参照ください。

https://exastro-suite.github.io/it-automation-docs/learn_ja.html [Exastro IT Automation を導入しよう]

II .ServiceNow連携モデル導入手順 / 1.導入準備(2/3)

● Playbook利用の準備

1. ITAがインストールされたサーバにTeratermでログインする。
2. Rootユーザになる。
3. 「ansible-galaxy collection install servicenow.servicenow」を実行する。
4. 「ansible-galaxy collection list」を実行し、図1のように表示されていることを確認する。
5. 「pip3 install pysnow」を実行する。
6. 「pip3 list」を実行し、図2のように表示されていることを確認する。

図1

```
[root@ホスト名 ~]# ansible-galaxy collection list
# /usr/local/lib/python3.6/site-packages/ansible_collections
Collection          Version
-----
amazon.aws          1.5.0
~ 略 ~

# /root/.ansible/collections/ansible_collections
Collection          Version
-----
servicenow.servicenow 1.0.6
```

図2

Package	Version
ansible	4.0.0
~ 略 ~	
pysnow	0.7.17

Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 1.導入準備(3/3)

下記のいずれかの場合、以降の手順を実行してください。

- ・既存のユーザに構成管理(CMDB)配下のテーブルにRESTによる追加/更新/削除の権限がない場合
 - ・ServiceNow側にITAとの連携専用のユーザを作成したい場合
-
- この手順が不要な場合は下記手順へ飛んでください。

[Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 2.ServiceNow連携モデルのダウンロード](#)

Ⅱ.ServiceNow連携モデル導入手順 / 1.導入準備(3/3)

1. 「ユーザー管理」 ⇒ 「ユーザー」 ⇒ 「新規」からServiceNow連携用ユーザを作成する。

The screenshot shows the ServiceNow User Management interface. On the left, the navigation bar has 'ユーザー' highlighted with a red box and a red circle labeled '1'. In the main area, the 'System User' list view is shown with three users listed. A red box highlights the '新規' (New) button in the top toolbar, with a red circle labeled '2' above it. Below the list, a detailed view of a new user record is displayed. The user ID is set to 'example_id'. The 'アクティブ' (Active) checkbox is checked. The '送信' (Send) button at the bottom-left of the form is highlighted with a red box and a red circle labeled '3'.

ユーザー ID	名前	姓	タイトル	部門	メール	言語	カレンダー同期	タイムゾーン	日付形式	勤務先 電話	携帯	写真
example_id	名前	苗字				System (英語)	Outlook	System (Asia/Tokyo)	System (yyyy-MM-dd)			クリックして追加...

POINT

「ユーザー名」「パスワード」はⅢ.ServiceNow連携手順 / 2.ServiceNow連携で利用するので、保管しておく。

Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 1.導入準備(3/3)

2. 作成したアカウントに「itil」 ロールを付与する



Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 2.ServiceNow連携モデルのダウンロード

- 以下URLからServiceNow連携モデル導入ファイルをダウンロードしてください。

URL : <https://github.com/exastro-suite/Settings-CloudSystemTemplate-XXX/releases>

ファイル名 : **cloud-system-template-servicenow-ce-1.0.0-exastro-1.7.2.kym**



Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 3.ServiceNow連携モデルのインポート(1/3)

- Exastro ITAに「administrator」でログインする。
- メニューグループ「エクスポート/インポート」> メニュー「メニューインポート」に移動する。
- 「ファイルを選択」を押下する。
- ServiceNow連携モデル導入ファイル（cloud-system-template-servicenow-ce-1.0.0-exastro-1.7.2）を選択してアップロードボタンを押下する。



Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 3.ServiceNow連携モデルのインポート(2/3)

- ダウンロードしたファイルをアップロードする。
- 「すべてのメニュー」にチェックが入っていることを確認する。
- 画面最下部の「インポート」ボタンを押下する。

メニューインポート

説明

アップロード

① ファイルを選択 [選択されていません]
アップロード

インポート

モード 環境 時刻指定 [2021-04-01 00:00] 廃止を除く

② すべてのメニュー

連携情報管理 連携対象メニュー管理 項目名紐づけ表

マスタ管理 クラス オペレーティングシステム

ServiceNow接続情報 ServiceNow接続情報

代入値自動登録用

ServiceNow接続情報 Linux

参照用

ServiceNow接続情報 Linux

Ansible共通

グローバル変数管理

Ansible-LegacyRole

ロール名管理 ロール変数名管理
 Movement-ロール紐付 変数名一覧
 変数具体値管理

Conductor

Conductorクラス一覧 Conductor紐付Node一覧

③ インポート

Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 3.ServiceNow連携モデルのインポート(3/3)

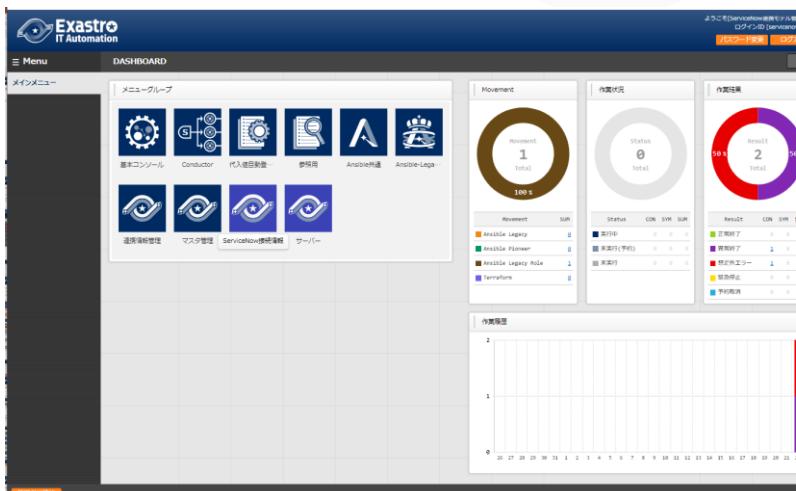
- 「エクスポート/インポート」>「エクスポート/インポート管理」>「フィルタ」を押下する。
- 数分後、再度フィルタを実行し、ステータスが「完了」と表示されていることを確認する。(所要時間は環境によって異なる)

エクスポート/インポート管理

一覧								
履歴	実行No.	ステータス	処理種別	モード	廃止情報	指定時刻	ファイル名	最終更新日時
履歴	1	完了	インポート	時刻指定	廃止を除く	2021/04/01 00:00	1_cloud-system-template-servicenow-ce-1.0.0-exastro-1.7.1.kym	2021/06/22 18:24:41

- インポートが完了した後、**ユーザーID「servicenow-user」** パスワード「password」でログインしなおす。
(初回ログイン時はパスワード変更画面に遷移するのでパスワードを変更する。)
- ユーザー「servicenow-user」で表示されるメインメニューは以下のとおり。

メインメニュー



Ⅱ.ServiceNow連携モデル導入手順 / 4.プロキシ情報の登録

ITA導入サーバーがServiceNowとの接続にプロキシサーバーを使用する環境である場合、本手順を実行してください。

プロキシ情報の登録

- 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」へ移動する。
- 「フィルタ」>「グローバル変数名」が“**GBL_PROXY**”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「備考」項目を参考に、「具体値」項目にプロキシサーバーの情報を入力して「更新」ボタンを押下する。

グローバル変数管理

一覧/更新 △閉じ

項目番号	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
設定	アクセス許可ロール						
600002	GBL_PROXY	OFF	プロキシ設定	設定	プロキシサーバを指定 【例】 sample.proxy.co.jp:8080 利用しない場合：OFF	自動入力	自動入力

* *は必須項目です。 Table setting 戻る 更新

POINT ② プロキシサーバーを利用しない場合、具体値に「OFF」を入力してください。



Ⅱ.ServiceNow連携モデル導入手順 / 5.証明書認証回避フラグの登録

ITA導入サーバーがServiceNowとの接続で証明書エラーが出る場合、本手順を実行してください。

証明書認証回避フラグの登録

- 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」へ移動する。
- 「フィルタ」>「グローバル変数名」が“**GBL_CERTFLAG**”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「備考」項目を参考に、「具体値」項目にON/OFFを入力して「更新」ボタンを押下する。

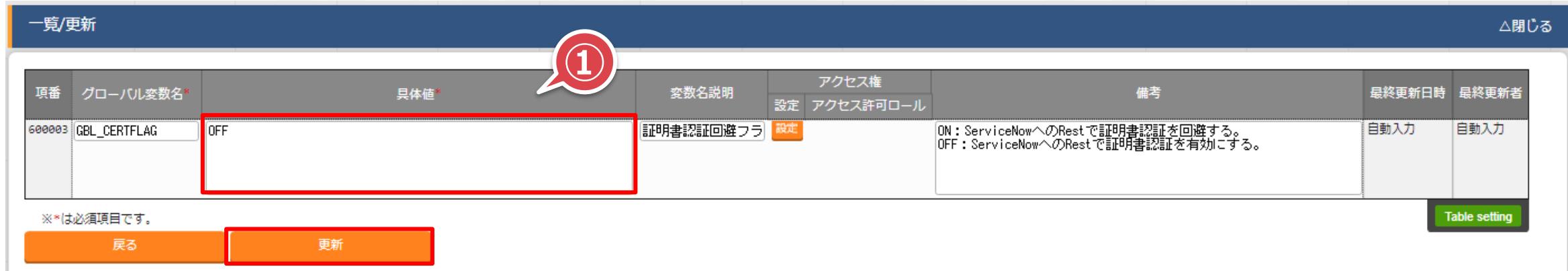
グローバル変数管理

一覧/更新 △閉じる

項番	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
設定	アクセス許可ロール						
600003	GBL_CERTFLAG	OFF	証明書認証回避フラグ	設定	ON : ServiceNowへのRestで証明書認証を回避する。 OFF : ServiceNowへのRestで証明書認証を有効にする。	自動入力	自動入力

※*は必須項目です。 Table setting

戻る **更新** ① ②



Ⅱ .ServiceNow連携モデル導入手順 / 6.削除実行フラグの登録

証明書認証回避フラグの登録

- 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」へ移動する。
- 「フィルタ」>「グローバル変数名」が“**GBL_DELETE_EXECUTE**”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「備考」項目を参考に、「具体値」項目にON/OFFを入力して「更新」ボタンを押下する。

グローバル変数管理

一覧/更新 △閉じる

項目番号	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				設定	アクセス許可ロール			
600004	GBL_DELETE_EXECUTE	OFF	削除実行フラグ	設定		連携データがITAIになく、ServiceNowにある場合にServiceNow側のデータを削除するかを決める。 ON : 削除 OFF : 無視	自動入力	自動入力

* *は必須項目です。

戻る 更新

①

②



III .ServiceNow連携手順

III. ServiceNow連携手順/ 1.はじめに



Ⅲ.ServiceNow連携手順 / 1.はじめに(1/3)

【はじめに】

- ServiceNow連携で利用するConductorはひとつのみ。
- 追加、更新、削除の条件は以下の通り。

状態		Servicenowに実行される処理
ITA	ServiceNow	
レコードあり	レコードなし	追加
レコードあり	レコードあり	更新
レコードなし	レコードあり	削除回避フラグONの場合：スキップ
		削除回避フラグOFFの場合：削除
レコードなし	レコードなし	スキップ

III.ServiceNow連携手順 / 1.はじめに(2/3)

ServiceNowの「名前」項目について

ITAの連携対象であるメニューの「ホスト名」がServiceNowの「名前」となります。

The screenshot shows two parts of the ServiceNow interface. The top part is a table titled 'オペレーション' (Operations) with columns for ID, Operation Name, Baseline Date, Scheduled Date, Final Run Date, Operating System, OS Version, and Manufacturer. A row is selected with ID 1, Operation Name 'HOST_A', Baseline Date '2021/06/01 17:00', Scheduled Date '2021/06/01 17:00', Final Run Date blank, Operating System 'Linux Red Hat', OS Version 'Iris', and Manufacturer 'Iris'. The 'Host Name' column is highlighted with a red box. The bottom part shows a search result for 'HOST_A' with filters for Name, Operating System (Linux Red Hat), OS Version (Iris), and Manufacturer (Iris). The 'Name' filter is also highlighted with a red box. An arrow points from the 'Host Name' column in the table to the 'Name' filter in the search results.

履歴	更新	廃止	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	オペレーティングシステム	osバージョン	メーカー
履歴	更新	廃止	1	HOST_A	1	設計_0601	2021/06/01 17:00	2021/06/01 17:00		Linux Red Hat		Iris

≡ 名前 ▾ ≡ オペレーティングシステム ≡ osバージョン ≡ メーカー

HOST_A Linux Red Hat Iris

マスタ管理について

ITAの「マスタ管理」にある程度のサンプルを事前に登録してあります。

追加,更新の方法は【IV.連携対象メニュー追加手順】を参照してください。

Ⅲ.ServiceNow連携手順 / 1.はじめに(3/3)

■ オペレーションについて

- 初期状態でオペレーションには、「ServiceNow連携」が登録されている。
- 連携対象のメニューに設定するオペレーション名は初期状態で登録されているオペレーション以外を設定してください。

オペレーション[一覧]									
選択	No.◆	オペレーションID◆	オペレーション名◆	実施予定日時◆	最終実行日時◆	アクセス権	備考◆	最終更新日時◆	最終更新者◆
						アクセス許可ロール◆			
<input type="radio"/>	600,001		600,001 ServiceNow連携	2021/04/01 12:00	2021/06/22 20:52			2021/06/22 20:52:45	legacyRole/作業実行プロシージャ



III. ServiceNow連携手順/ 2.ServiceNow連携情報の登録

Ⅲ.ServiceNow連携手順 / 2.ServiceNow連携情報の登録

ServiceNow接続情報の更新

- ITAにServiceNow連携モデル管理者でログインする。
- 「ServiceNow接続情報」 > 「ServiceNow接続情報」へ移動する。
- 「オペレーション名」が"ServiceNow連携"のレコードの値を更新する。
全ての項目に値を入力し「更新」を押下する。

ServiceNow接続情報

オペレーション											パラメータ				
履歴	更新	廃止	No	ホスト名	ID	オペレーション名	基準日時	実施予定日時	最終実行日時	インスタンス名	ユーザ名	パスワード	アクション	最終更新日時	最終更新者
履歴	更新	廃止	1	exastro-it-automation	600,001	ServiceNow連携	2021/04/01 12:00	2021/04/01 12:00	*****	sample_user	*****			2021/06/22 08:49:06	システム管理者

フィルタ結果件数: 1

Table setting

POINT

変更が必要:
「インスタンス名」…ドメインなしのServiceNowインスタンス名
「ユーザ名」…ServiceNowのユーザ名
「パスワード」…ServiceNowのパスワード

III. ServiceNow連携手順/ 3.オペレーション一覧の登録

III. ServiceNow連携手順/ 3.オペレーション一覧の登録

オペレーション一覧の登録

- 「基本コンソール」>「オペレーション一覧」へ移動する。
- 「登録開始」を押下してパラメータの値を必要に応じて入力する。
必要な項目に情報を登録したら「登録」を押下する。

機器一覧

登録

No.	オペレーションID	オペレーション名*	実施予定日時*	アクセス権	備考	最終更新日時	最終更新者
		設定	アクセス許可ロール				
自動入力	自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	設定		自動入力	自動入力

* *は必須項目です。

戻る 登録

POINT

入力が必要:
「オペレーション名」…最大値: 256バイト
「実施予定日時」…カレンダーから選択
※ServiceNow連携では最新のパラメータを判定する際に利用



III. ServiceNow連携手順/ 4.連携メニューの登録

III. ServiceNow連携手順/ 4.連携メニューの登録 (1/3)

Linuxの登録

- 「サーバ」 > 「Linux」 へ移動する。
- 「登録開始」を押下してパラメータの値を必要に応じて入力する。

必要な項目に情報を登録したら「登録」を押下する。

Linux

登録

△閉じる

No	ホスト名*	オペレーション	パラメタ	最終更新日時	最終更新者
自動入力	（選択肢一覧）	オペレーティングシステム	OSバージョン メーカー	自動入力	自動入力

* *は必須項目です。

戻る 登録

POINT

入力が必要:

「ホスト名」 … 機器一覧に登録されているものを選択する。

登録方法は[こちら](#)の「4.1.1.1 機器一覧」を参照してください。

「オペレーション」 … オペレーション一覧に登録されているものを選択する。

登録方法は[こちら](#)の「4.1.1.3 投入オペレーション一覧」を参照してください。

任意で入力:

「オペレーティングシステム」 … 「マスタ管理」 > 「オペレーティングシステム」に登録されているものを選択する。

「OSバージョン」 … 対象レコードのOSのバージョンを入力する。

「メーカー」 … 「マスタ管理」 > 「メーカー」に登録されているものを選択する。

III. ServiceNow連携手順/ 4.連携メニューの登録 (2/3)

Windowsの登録

- 「サーバ」>「Windows」へ移動する。
 - 「登録開始」を押下してパラメータの値を必要に応じて入力する。
必要な項目に情報を登録したら「登録」を押下する。

Windows

登録

△閉じる

No	ホスト名*	オペレーション オペレーション*	パラメータ オペレーティングシステム	osバージョン	アクセス権 設定	アクセス許可ロール	最終更新日時	最終更新者
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<button>設定</button>		自動入力	自動入力
<p>※*は必須項目です。</p>								

POINT

入力が必要

「ホスト名」… 機器一覧に登録されているものを選択する。

登録方法は[こちら](#)の「4.1.1.1 機器一覧」を参照してください。

「オペレーション」… オペレーション一覧に登録されているものを選択する。

登録方法は[こちら](#)の「4.1.1.3投入オペレーション一覧」を参照してください。

任意で入力

「オペレーティングシステム」…「マスタ管理」>「オペレーティングシステム」に登録されているものを選択する。
「OSバージョン」…対象レコードのOSのバージョンを入力する。

III. ServiceNow連携手順/ 4.連携メニューの登録 (3/3)

UNIXの登録

- 「サーバ」 > 「UNIX」へ移動する。
- 「登録開始」を押下してパラメータの値を必要に応じて入力する。
必要な項目に情報を登録したら「登録」を押下する。

UNIX

登録

No	ホスト名*	オペレーション	パラメータ	説明	OSバージョン	クラス
	オペレーション*	オペレーティングシステム				クラス名
自動入力						

^{}は必須項目です。

戻る 登録

クラス (登録時)

クラス
クラス名

Solaris サーバー ▾

クラス (一覧表示時)

クラス
クラス名
Solaris サーバー cmdb_ci_solaris_server

POINT

入力が必要:

「ホスト名」 … 機器一覧に登録されているものを選択する。

登録方法は[こちら](#)の「4.1.1.1 機器一覧」を参照してください。

「オペレーション」 … オペレーション一覧に登録されているものを選択する。

登録方法は[こちら](#)の「4.1.1.3 投入オペレーション一覧」を参照してください。

「クラス」 … 「マスタ管理」 > 「クラス」に登録されているものを選択する。

任意で入力:

「オペレーティングシステム」 … 「マスタ管理」 > 「オペレーティングシステム」に登録されているものを選択する。

「説明」 … 対象レコードの説明を入力する。

「OSバージョン」 … 対象レコードのOSのバージョンを入力する。

※クラスについて、ServiceNow連携で利用するのは「クラス名」ではなく「クラス」を利用しています。

III. ServiceNow連携手順/ 5. Conductorの実行



III.ServiceNow連携手順 / 5. Conductorの実行 (1/3)

Conductor実行「Conductor」>「Conductor作業実行」へ移動する。

- 「Conductor[一覧]」の「ServiceNow連携」を選択する。
- 「オペレーション[一覧]」から「ServiceNow連携」を選択する。

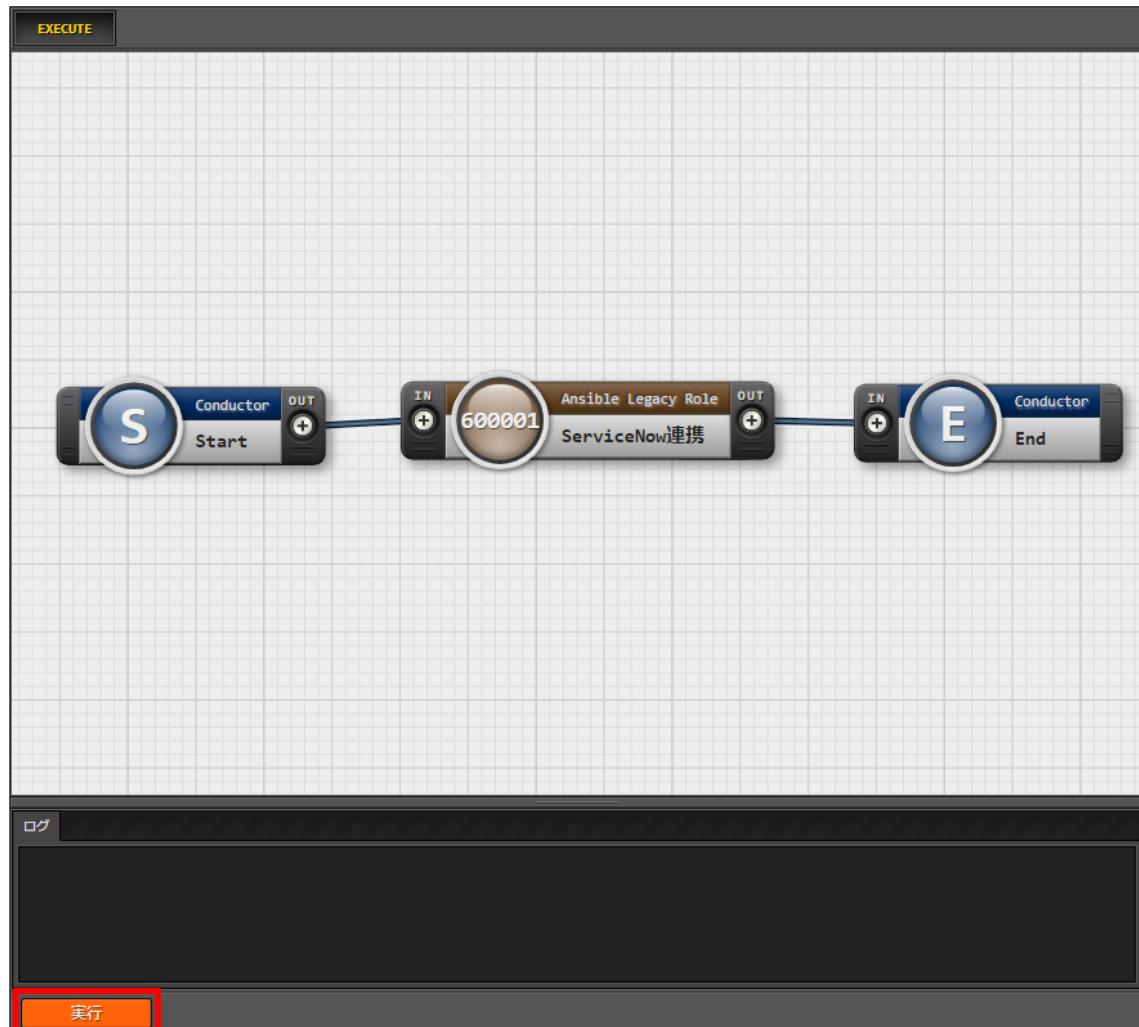
Conductor[一覧]						
選択	ConductorクラスID	Conductor名称	説明	アクセス権	備考	最終更新日時
				アクセス許可ロール		
<input type="radio"/>	600,001	ServiceNow連携			2021/06/22 08:51:08	データポータビリティプロシージャ
フィルタ結果件数: 1						

オペレーション[一覧]						
選択	No.	オペレーションID	オペレーション名	実施予定日時	最終実行日時	アクセス権
						アクセス許可ロール
<input type="radio"/>	600,001	600,001	ServiceNow連携	2021/04/01 12:00	2021/06/22 20:52	
フィルタ結果件数: 1						

III.ServiceNow連携手順 / 5. Conductorの実行 (2/3)

Conductor実行

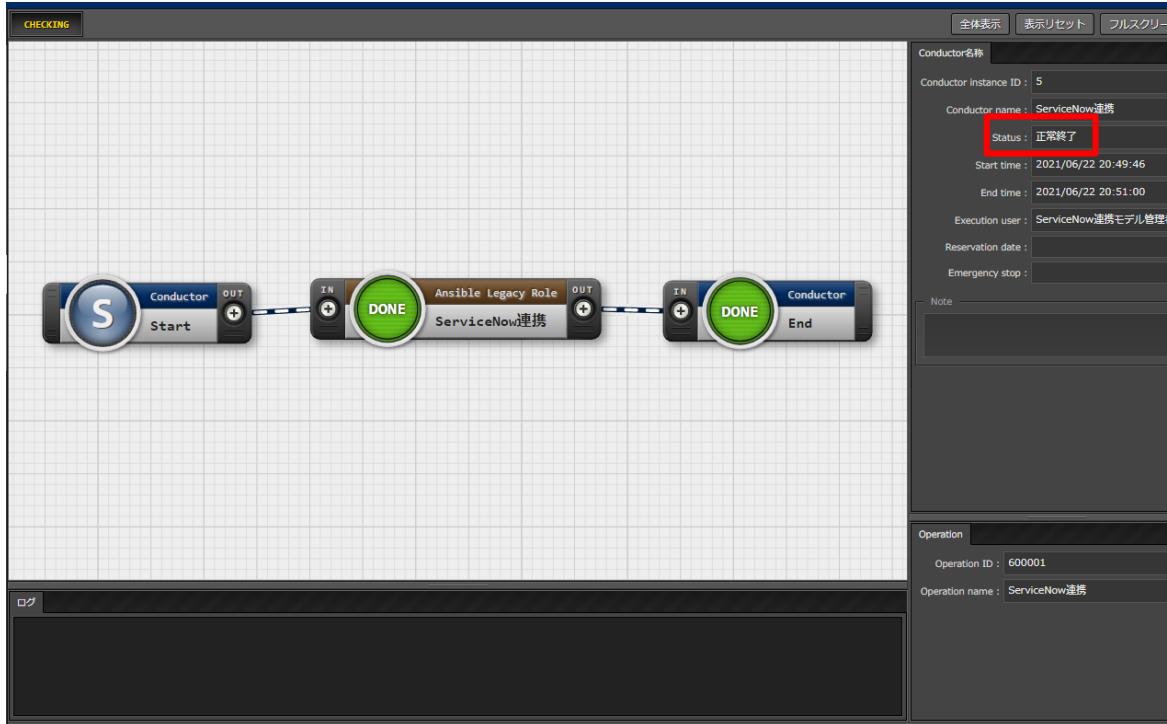
- 画面下部の実行ボタンを押下する。



III.ServiceNow連携手順 / 5. Conductorの実行 (3/3)

実行結果の確認

- Statusに「正常終了」が表示されていることを確認する。



ServiceNowの確認

- ServiceNowへログインする。
- 「構成管理(CMDB)」「サーバー」「Linux,Windows,UNIX」へ移動する。
- ITAに登録したレコードが連携されていることを確認する。

IV.連携対象メニュー追加手順



IV.連携対象メニュー追加手順 / 1.はじめに



IV.連携対象メニュー追加手順 / 1.はじめに

はじめに

- 作業は「システム管理者」である「administrator」で実施する。
- ServiceNow連携で利用できるのは、「構成管理(CMDB)」配下に限る。
- 作業対象メニューは下記表を参照

メニューグループ名	メニュー名
メニュー作成	メニュー定義・作成
管理コンソール	ロール・メニュー紐付管理
連携情報管理	連携対象メニュー管理
連兼情報管理	項目名紐づけ表
マスタ管理	クラス
マスタ管理	オペレーションシステム
マスタ管理	メーカー



IV.連携対象メニュー追加手順 / 2.連携対象メニューの追加

IV.連携対象メニュー追加手順 / 2.連携対象メニューの追加 (1/2)

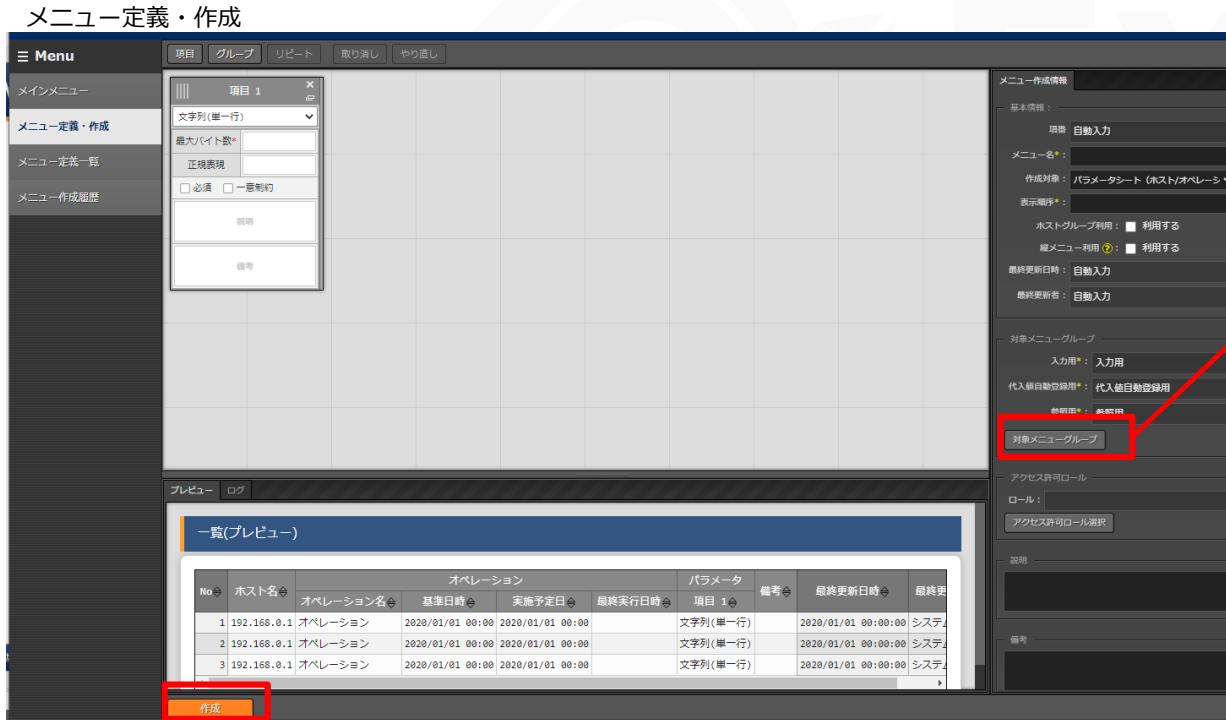
メニュー作成

- 「メニュー作成」>「メニュー定義・作成」へ移動する。
- 追加したいテーブルの名前以外の項目を作成する。

全ての項目を設定し「作成」を押下する。

※メニュー作成方法の詳細は下記資料を参照

[Exastro-ITA 利用手順マニュアル メニュー作成機能.pdf](#)



IV.連携対象メニュー追加手順 / 2.連携対象メニューの追加 (1/2)

項目名に「クラス」を利用する場合

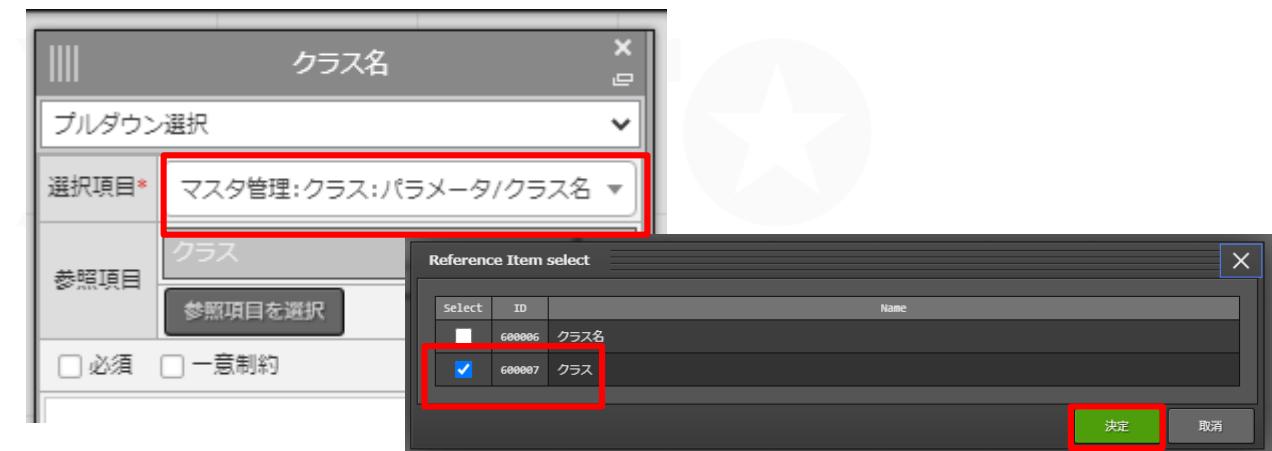
- ServiceNowのクラスは見た目は日本語（または英語）で入っているが、裏で持っているデータはテーブル名。
- ServiceNow連携モデルでは「マスタ管理」>「クラス」というメニューを作成し管理する方式をとっている。
- 入力方式を[プルダウン]にして、「クラス」を指定するのを推奨しているが、[文字列（單一行）]でも問題はない

マスタ> クラス

履歴	更新	廃止	No	クラス名	クラス
履歴	更新	廃止	1	Linux サーバー	cmdb_ci_linux_server
履歴	更新	廃止	2	Windows Server	cmdb_ci_win_server
履歴	更新	廃止	3	UNIX サーバー	cmdb_ci_unix_server

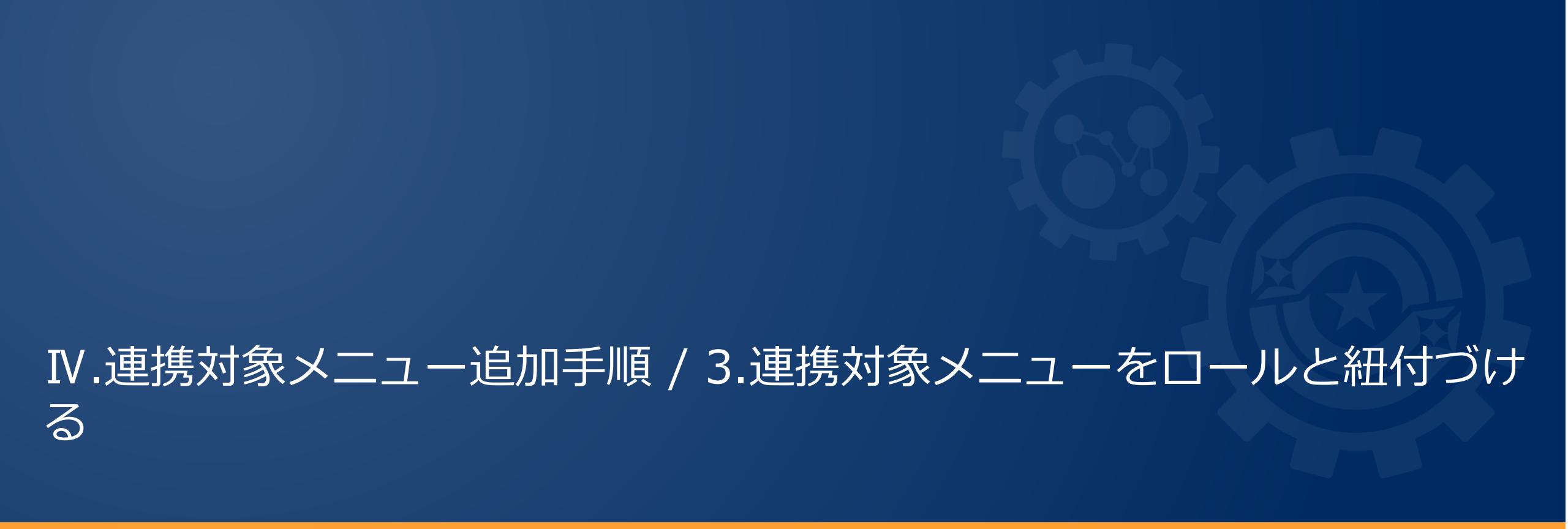
連携対象はこっち

メニュー定義・作成



POINT

「入力方式」… [プルダウン]推奨
「参照項目」… 「クラス」を指定



IV.連携対象メニュー追加手順 / 3.連携対象メニューをロールと紐付ける

IV.連携対象メニュー追加手順 / 3.連携対象メニューをロールと紐付づける

連携対象メニューをロールと紐付ける

- 「管理コンソール」>「ロール・メニュー紐付管理」へ移動する。
- 全ての項目を設定し「登録」を押下する。

ロール・メニュー紐付管理

登録

項目番号	ロール (ID:名前) *	メニュー グループ: メニュー *	紐付 *	最終更新日時	最終更新者
自動入力	600002:ServiceNow管理者ロール (固定)	メニュー	メンテナンス可 (固定)	自動入力	自動入力

※ *は必須項目です。

戻る 登録 Table setting

POINT

「ロール (ID:名前)」… 600002:ServiceNow管理者ロール (固定)
「メニュー グループ: メニュー」… 紐付けたいメニューを選択
「紐付」… メンテナンス可 (固定)
※表示だけさせたい場合は「閲覧のみ」を選択



IV.連携対象メニュー追加手順 / 4.連携対象メニュー管理の登録

IV.連携対象メニュー追加手順 / 4.連携対象メニュー管理の登録 (1/2)

連携対象メニュー管理の登録

- 「連携情報管理」>「連携対象メニュー管理」へ移動する。
- 全ての項目を設定し「登録」を押下する。

連携対象メニュー管理

登録

No	メニュー名*	テーブル名*	設定
自動入力	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>

^{}は必須項目です。

戻る

POINT

「メニュー名」…連携したいメニューを選択
「テーブル名」…連携対象のテーブル名
※図1参照

IV.連携対象メニュー追加手順 / 4.連携対象メニュー管理の登録 (2/2)

■ テーブル名取得

- ServiceNowへログイン
- 「構成管理CMDB」へ移動する。
- テーブル名を取得したいメニューの「」を押下する。
- 「リンクタイプ」を押下する。
- テーブル欄に表示されている角括弧内の値をITAに登録する。



POINT

この値はメニュー名：[クラス](#)の項目「クラス」でも利用

IV.連携対象メニュー追加手順 / 5.項目名紐づけ表の登録



IV.連携対象メニュー追加手順 / 5.項目名紐づけ表の登録 (1/3)

項目名紐付づけ表の登録

- 「連携情報管理」>「項目名紐付づけ表」へ移動する。
- 全ての項目を設定し「登録」を押下する。

連携対象メニュー管理

登録

No	メニュー グループ: メニュー*	項目*	ServiceNow項目名*
自動入力	<input type="text"/>	メニューを選択して下さい	<input type="text"/>

※*は必須項目です。

戻る 登録

①

②

POINT

「メニュー グループ: メニュー」… 連携したいメニューを選択
「項目」… 項目名を選択
「ServiceNow項目名」… ServiceNowの項目名を入力

IV.連携対象メニュー追加手順 / 4.連携対象メニュー管理の登録 (2/3)

ServiceNowの項目名を取得①

- ServiceNowへログイン
- 「構成管理CMDB」へ移動する。
- 項目名を取得したいメニューを押下する。
- 「新規」を押下する。
- 表示されている項目名の上で右クリックをする



IV.連携対象メニュー追加手順 / 4.連携対象メニュー管理の登録 (3/3)

ServiceNowの項目名を取得②

- ServiceNowへログイン
- 「構成管理CMDB」へ移動する。
- 項目名を取得したいメニューを押下する。
- 項目名の右にあるスペースで右クリックし、「XML表示」を押下する。
- 表示されたXMLから該当項目名のカラム名を見つける。

ServiceNow



```
<xml>
  <cmdb_ci_linux_server>
    <asset>345188171bf0f41090fd982f0a4bcb02</asset>
    <asset_tag/>
    <assigned/>
    <assigned_to/>
    <assignment_group/>
    <attestation_score/>
    <attested>false</attested>
    <attested_by/>
    <attested_date/>
    <attributes/>
    <can_print>false</can_print>
    <category>Hardware</category>
    <cd_rom>false</cd_rom>
    <cd_speed/>
```

IV.連携対象メニュー追加手順 / 6.クラスの登録



IV.連携対象メニュー追加手順 / 6.クラスの登録

クラスの登録

- 「マスタ管理」>「クラス」へ移動する。
- 全ての項目を設定し「登録」を押下する。

クラス

The screenshot shows the 'Class' registration screen. At the top, there is a blue header bar with the word '登録' (Register) in white. Below the header is a table with two rows. The first row has three columns: 'No' (No.), 'クラス名*' (Class Name*) with a red border, and 'クラス*' (Table) with a red border. The second row has three columns: '自動入力' (Automatic Input), an empty input field, and a '設定' (Setting) button. To the right of the table are buttons for 'アクセス' (Access) and '設定' (Setting). A red circle with the number '1' is placed above the 'クラス名*' and 'クラス*' fields. At the bottom of the screen are two orange buttons: '戻る' (Back) and '登録' (Register). A red circle with the number '2' is placed above the '登録' button. A note at the bottom left says '※*は必須項目です。' (* is a required item).

POINT

「クラス名」… わかりやすい名前を設定(ServiceNowの表示にあわせるのを推奨)
「クラス」… テーブルを入力
※テーブル取得方法は下記参照

[IV.連携対象メニュー追加手順 / 4.連携対象メニュー管理の登録 \(2/2\)](#)



IV.連携対象メニュー追加手順 / 7.オペレーティングシステムの登録

IV.連携対象メニュー追加手順 / 7.オペレーティングシステムの登録 (1/2)

オペレーティングシステムの登録

- 「マスタ管理」>「オペレーティングシステム」へ移動する。
- 全ての項目を設定し「登録」を押下する。

オペレーティングシステム

The screenshot shows the 'Operating System' registration page. At the top, there is a blue header bar with the word '登録' (Register). Below it is a table with two columns: 'No.' and 'オペレーティングシステム*'. The 'オペレーティングシステム*' column contains a red-bordered input field labeled '自動入力' (Automatic Input) and a '設定' (Setting) button. To the right of the table is a section titled 'アクセス権' (Access Rights) with '設定' and 'アクセス許可ロール' (Access Permission Role) buttons. A note at the bottom left says '※*は必須項目です。' (※* is a required item). At the bottom are two orange buttons: '戻る' (Back) and '登録' (Register), with the '登録' button also having a red border.

POINT

「オペレーティングシステム」… ServiceNowに登録されているオペレーティングシステム名を入力する

IV.連携対象メニュー追加手順 / 7.オペレーティングシステムの登録 (2/2)

オペレーティングシステムの取得

- 「システムローカライズ」>「選択肢」へ移動する。
- 検索を「要素」に変更し、検索窓に「os」を入力しEnterを押下する。
- 値の列の値をITAに登録する。

ServiceNow

検索	検索	検索	検索	検索	検索	検索	検索	検索
(i) cmdb_ci_computer	os	ja	HP/UX	HP/UX	false	0		
(i) cmdb_ci_computer	os	ja	Windows 2003 Web	Windows 2003 Web	false	0		
(i) cmdb_ci_computer	os	ja	Mac OS 9	Mac OS 9	false	0		
(i) cmdb_ci_computer	os	en	Hyper-V 2012	Hyper-V 2012	false	0		
(i) cmdb_ci_computer	os	en	SunOS	SunOS	false	0		
(i) cmdb_ci_computer	os	ja	Windows 2000 Server	Windows 2000 Server	false	0		
(i) cmdb_ci_win_server	os	ja	Windows 2003 Standard	Windows 2003 Standard	false	0		
(i) cmdb_ci_computer	os	ja	Windows 2003	Windows 2003 Datacenter	false	0		

IV.連携対象メニュー追加手順 / 8.メーカーの登録



IV.連携対象メニュー追加手順 / 8.メーカーの登録 (1/2)

メーカーの登録

- 「マスタ管理」>「メーカー」へ移動する。
- 全ての項目を設定し「登録」を押下する。

メーカー

登録

No	メーカー*	アクセス権	
	設定	アクセス許可ロール	
自動入力	<input type="text"/>	<input type="button" value="設定"/>	

* *は必須項目です。

戻る

POINT

「メーカー」… ServiceNowに登録されているメーカー名を入力

IV.連携対象メニュー追加手順 / 8.メーカーの登録 (2/2)

メーカーの取得

- 「組織」 > 「会社」へ移動する。
- 名前の列をITAに登録する。

ServiceNow

The screenshot shows the ServiceNow interface for managing companies. On the left, the navigation bar includes 'Knowledge', '組織' (highlighted with a red box), 'ユーザー', 'コストセンター', '部門', and '会社' (highlighted with a red box). Below the navigation bar are edit and star icons. The main area displays a search results page for '会社'. The top navigation bar shows '会社 [顧客件のビュー]' and '新規' (New). The search bar has '検索' (Search) and '名前' (Name) dropdowns. The results table has columns for '名前' (Name), '番地' (Address), '市区町村' (City/Town), '郵便番号' (Postal Code), and '電話' (Phone). The '名前' column is highlighted with a red box and labeled with a circled '②'. The first result in the list is '(空)'.

名前	番地	市区町村	郵便番号	電話
(空)				
3Com	333 W. San Carlos St., Ste. 1500	San Jose	95110	(408) 533-7700
Acer				
ACME Africa				
ACME Americas				

V. 付録



V. 付録/ 1. 認証キー情報を変更したい場合

認証キー情報の登録

- 「Ansible共通」>「グローバル変数管理」へ移動する。
- 「フィルタ」>「グローバル変数名」が“**GBL_AUTHORIZATION**”のレコードの更新ボタンを押下する。
- 「備考」項目を参考に、「具体値」項目にプロキシサーバーの情報を入力して「更新」ボタンを押下する。

グローバル変数管理

The screenshot shows the 'Global Variable Management' screen with the following details:

項目番号	グローバル変数名*	具体値*	変数名説明	アクセス権		備考	最終更新日時	最終更新者
				設定	アクセス許可ロール			
600001	GBL_AUTHORIZATION	XXXXXXXXXXXX	REST用認証キー	設定		ITAIにRESTを送信するための認証キー	自動入力	自動入力

Annotations:

- ① A red circle highlights the 'Value' input field containing 'XXXXXXXXXXXX'.
- ② A red circle highlights the 'Update' button at the bottom of the form.

★認証キーの作成方法

作成したユーザーの「ユーザーID」と「パスワード」を、半角コロン(:)で結合して、base64encodeする。

例: Linuxなどで実施する場合

```
echo -n "sample-user:password" | base64
```



Exastro 